

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 12 月 12 日

【評価実施概要】

事業所番号	3610510087
法人名	医療法人 藤野会
事業所名	グループホーム 成田
所在地	徳島県美馬市脇町字拝原2573-1 (電話) 0883-52-1710

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 12 月 5 日

【情報提供票より】(平成 20 年 11 月 10 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤:13人、非常勤:0人、常勤換算:藍 6.5人 凜 6.0人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	共同部分の消耗・日用品費6,000円、その他実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 11 月 10 日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.94 歳	最低	67 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人藤野会 成田病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は大通りから少し住宅街に入った場所に位置し、周囲には田畑や民家がある。地域住民とは馴染みの関係が築かれている。利用者は思い思いの生活を営み、職員は暖かく見守りながら共に過ごし、穏やかな時間が流れている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での主な課題である「家族等への報告」、「チームでつくる利用者本位の介護計画」、「現状に即した介護計画の見直し」の項目について、職員間の情報共有や家族の確認は改善されている。「運営推進会議を活かした取り組み」、「職員を育てる取り組み」の項目については改善されていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義や目的を理解して職員間で話し合い、自己評価に取り組んでいる。また外部評価結果についてはミーティングで報告し、改善についての話し合いと実践に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は3か月に1回開催し、利用者や家族、民生委員、市職員、地域の施設職員などが参加している。内容は介護予防や人材確保についての研修、地域交流、農園の借用、行事、防災訓練などの討議を行い、サービスの質の向上につなげている。会議録は残されているが、職員の確認印・サインなどが不十分である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱の設置や行政・外部の苦情相談窓口の説明、面会時の言葉かけ等により家族からの要望などを把握している。意見等についてはミーティングで話し合い、サービスの質の向上に繋げている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事やお祭り、近隣施設の文化祭や催し物に利用者や家族と一緒に出かけられている。近所への散歩や買い物時に地域の方と挨拶や会話を交わしている。また近所の方から野菜や果物などの差し入れなどの交流があり、馴染みの関係を築いている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員は地域密着型サービスとしての意義を理解し、利用者が地域の人々との関わりや交流を大切にしながら安心して暮らせるように尊厳を大切にされた事業所独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はミーティングの際に確認し、具体的にどのように利用者に関わっていくのかを話し合い、サービスに反映させている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事やお祭り、近隣施設の文化祭や催し物に利用者や家族と一緒に出かけている。近所への散歩や買い物時に地域の方と挨拶や会話を交わしている。また近所の方から野菜や果物などの差し入れなどの交流があり、馴染みの関係を築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を理解して職員間で話し合い、自己評価に取り組んでいる。また外部評価結果についてはミーティングで報告し、改善についての話し合いと実践に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者や家族、民生委員、市職員、地域の施設職員などが参加している。内容は介護予防や人材確保についての研修、地域交流、農園の借用、行事、防災訓練などの討議を行い、サービスの質の向上につなげている。しかし開催頻度はおおむね3か月に1回である。また会議録は残されているが、職員の確認印・サインなどが不十分である。	○	運営推進会議は2か月に1回、開催されたい。また会議録は全職員に回覧し、確認印・サインすることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市の担当窓口を訪問し、事業所の実情や取り組みを伝えるなどして協力関係を築き、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	電話連絡や来訪時の報告など、家族が希望する方法で利用者の暮らしぶりや健康状態を伝えている。また日頃の行事や生活状況の様子は写真に写して廊下に掲示し、面会時に楽しめるよう配慮している。金銭管理については、出納記録があり、家族の確認印・サインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や行政・外部の苦情相談窓口の説明、面会時の言葉かけ等により家族からの要望などを把握している。意見等についてはミーティングで話し合い、サービスの質の向上に繋げている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動などは最小限にとどめ、馴染みの関係による支援を行っている。やむを得ない場合には利用者や家族に説明して引き継ぎ期間を十分に設けるなど、影響を少なくするよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、事業所内で研修を実施している。また外部の研修には交代で参加している。研修内容は他の職員に報告し、共有している。しかし、研修計画は立てられていない。	○	職員を段階に応じて育成するため、研修は計画を立てて実施・参加することが望ましい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会徳島県支部に加入し、研修会などで知り合った人たちと電話で情報交換し、サービスの質の向上に活かしている。しかし、同業者との交流はない。	○	同業者との交流を図りたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に体験利用をしてもらうなどしてホームの雰囲気を知ってもらい、徐々に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	梅干しや干し大根、漬け物の作り方、煮物の味加減などを人生の先輩である利用者に教えてもらうなど、共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で利用者の思いや希望の把握に努めている。また利用者の暮らしぶりや職員の意見などを家族に伝え、共に利用者本位の支援を検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族から意見・要望を聞き、全職員でアセスメントして話し合い、介護計画を作成している。計画書には利用者・家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて見直している。また利用者の状態に変化が生じた場合には、家族などと相談し、柔軟に変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、通院や往診など利用者や家族の状況や要望に応じて柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診できるよう支援している。また家族と協力しながら受診の付き添いを行うなどして、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期における対応指針を定め、利用者や家族に説明し、かかりつけ医や関係者との連携や協力を得て方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	年に2回、法人内の研修で個人情報保護やプライバシー保護について勉強している。入浴介助時などには特にプライバシーの保護について徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼食後の散歩や入浴など、利用者一人ひとりの生活リズムや希望を大切に、体調に配慮しながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳やお茶入れなど、利用者一人ひとりの能力に応じた準備や後片づけを支援している。利用者と職員は同じテーブルを囲み食事している。また職員は利用者を急かすことなく、最後まで自分で食べられるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望に応じて毎日入浴できるようになっている。また利用者の健康状態や精神状態により、シャワーや清拭、足浴などの支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者一人ひとりの残存能力を見出し、配膳や洗濯物たたみ、梅干しや干し柿、干し大根づくりなど経験や知恵を發揮できる場面をつくり、生き甲斐につながるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の気分や要望に応じ、花見や行事、地域の施設のお祭り、散歩、買い物など戸外に出かける機会を多く設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解し、利用者の見守りを徹底して安全面に配慮し、日中は施錠せず自由に出入りできるよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。非常災害時には町内会の協力が得られるよう働きかけている。また朝のミーティングで避難経路や消火器の設置場所、使用方法などを確認し、非常時に備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を把握し、職員間で情報を共有している。栄養バランスについては隣接施設の管理栄養士から専門的アドバイスを受けている。水分は居室にお茶や水が入った水筒を置き、いつでも飲めるよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭先には利用者がつくった干し柿や干し大根を吊し、季節感や生活感を感じることができる。また、居間にはソファや机、椅子などを配置し、利用者が思い思いに過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者を使い慣れたタンスや椅子などを持ち込み、居心地よく過ごせるよう配置されている。		